

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立浦和西高等学校)

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校
--------	---

重点目標	1 確かで高度な学力を確立し、第一志望を実現する質の高い授業の実践 2 地域に信頼され貢献できる生徒の育成 (信頼される人間力の育成) 3 たくましく健やかな心身の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>「確かで高度な学力の確立」の指標となる大学合格実績は、令和3年度卒業生も近年の高水準を堅持し、難関大学現役合格者数をさらに増加させ、過去最高を更新した。教員が生徒を尊重しつつ、献身的に指導を行い、生徒は自主自立の精神をもって、高い志を掲げ、全力で努力する。本校の躍進が窺われている。</p> <p>課題は、大きな変化を見せた新傾向入試への対応及び令和4年度入学生から実施される新学習指導要領に基づく学力養成の体制整備である。</p>	<p>高い志を持って目標を設定し、「確かで高度な学力」を身に付け、最後まで諦めることなく第一志望実現に挑む生徒を育成する。</p> <p>「確かで高度な学力」を身に付けさせる質の高い授業づくりを推進するとともに、生徒一人一人の進路希望に対応した多彩で効果的な学習機会を提供する。</p>	<p>1 「確かで高度な学力」の育成、第一志望の実現 ①進学校12校を対象とした県教育委員会事業「オンライン連携講座事業指定校」を活用した学習指導・進路指導の推進 ②大学入学共通テストをはじめとする新制度入試の動向把握と生徒への情報提供、学習指導への反映 ③進路相談や個人面談等による個に応じたきめ細やかな進路指導の実践</p> <p>2 質の高い授業の実践 ①生徒による授業評価アンケートの実施(年2回)、シラバスを活用した授業改善 ②BYOD、ICTを活用した学習指導の充実 ③教科内研究協議、校内授業相互見学、予備校を含む外部講堂受講による授業改善 ④観点別評価を活用した学習指導の充実</p>	<p>①旧帝大・医学部医学科等国立大学トップ校の合格者数増加 ②③難関大学の現役合格者数増加 国立・早慶上理・GMARCH 一昨年度316名 昨年度352名</p> <p>①授業満足度の向上(昨年度87.7%) ②ICTを活用した指導の拡大・向上の状況 ③④授業力向上研修の拡大・向上の状況</p>	<p>進路指導部・学年・教科が連携し、3年間を見通した指導計画を遂行して生徒に確かで高度な学力を養い、高い志を持って、一人一人が自己の第一志望実現に向け努力する学校づくりができた。年内入試(学校推薦型選抜及び総合型選抜)の受験者数を引き続き減少し、一般選抜で第一志望校に挑戦する生徒が一層増加した。 ①③年内入試での国立大学合格者は、東北大学を含む8名(前年10名)。 ②③大学入学共通テストの受験率は学年全体の95%(前年98%)。</p> <p>適早くICTを活用し指導を行うことが定着し、生徒に高度で確かな学力を身に付けさせる質の高い授業を全校で行っている。生徒一人一人の進路希望に対応した多彩で効果的な学習機会を提供した。 ①生徒の授業満足度は87.8%だった(昨年度87.7%)。また、CAN-DOリスト達成率は82.1%だった(前年82.5%)。 ②タブレットの使用は平均で月間200回だった。また、コロナによる自宅学習者に向けたリモート授業を完全実施した。 ③教員相互授業見学は、全教員の合計で257回だった(前年260回)。また、駿台教育探究セミナーを長期休業ごとに、ほぼ全教科が受講した。 ④観点別評価を円滑に実施するため、ワークシートを作成した。</p>	A	<p>・大学入学共通テストの得点上昇を図る指導体制の構築が課題である。各教科で組織的に問題分析及び指導事項の研究等を進めることが求められる。 ・一人一台端末の導入を控え、効果の高い活用方法の研究を進めていきたい。</p>	
2	<p>学校HPをはじめ、紙媒体の通信・冊子、youtube 動画等の多様なメディアを活用するとともに、対面での情報提供にも積極的に取り組み、開かれた学校づくりを推進している、本校に対する地域の信頼が高まっている。</p> <p>地域との交流活動はコロナ禍による制約の中、限定的であった。コロナ禍3年目となる今年度の課題は、中止・縮小された交流活動の段階的な復旧または代替事業の着実な実施である。</p>	<p>様々なメディアを活用して西高の魅力を情報発信し、開かれた学校づくりを一層推進することにより、地域・県民との信頼関係をより強固なものにしていく。</p> <p>コロナ禍において、自ら率先して考え、工夫し、地域との交流や社会貢献活動に取り組むことができる生徒を育成する。</p>	<p>1 本校の特色、教育活動の状況、生徒の活動の発信 ①情報発信の中心である学校HPの充実 ②紙媒体「学校通信」の充実 ③保護者アンケートの導入 ④学校説明会の効果的な実施、部活動見学会等の開催 ⑤中学校、学習塾を含む高校説明会への積極的参加</p> <p>2 新型コロナウイルス感染拡大により中止・縮小された地域交流活動の段階的な復旧または代替事業の着実な実施 県・保健所の指導の下、感染防止対策を徹底した上で、 ①PTA・後援会と連携した事業の推進 ②斜面林友の会と連携した斜面林保全活動の推進 ③生徒会主催クリーンアップ作戦(地域清掃)等社会貢献活動、ボランティア活動への参加促進 ④90周年記念事業準備委員会の設置</p>	<p>①HPの構成、コンテンツの改善・充実の状況 ②「学校通信」の定期的発行、内容の充実の状況 ③保護者アンケート結果の状況 ④⑤入試の志願倍率の状況</p> <p>①②③地域交流活動、社会貢献活動の復旧・代替事業の実施の状況 ④準備委員会の活動の状況</p>	<p>webや印刷物のほか、対面での情報提供にも積極的に取り組み、本高の魅力を地域・県民に情報発信し続け、開かれた学校づくりを一層推進した。 ①学校HPは頻りに更新し、39万3547アクセス(1月23日現在)。 ②学校通信は定期的に発行し、5号発行した(1月23日現在)。 ③保護者アンケートを新規導入し、1月末実施した。 ④学校説明会は7日間で計17回実施した。 ⑤学習塾主催入試説明会参加7回、塾訪問12校、中学校PTA来校4校。</p> <p>コロナ禍で中止・縮小された保護者や地域等との活動の段階的な復旧または代替事業を実施した。 ①PTA、後援会、同窓会行事の実施を支援した。 ②斜面林友の会の活動を支援した。 ③地域清掃等社会貢献活動、ボランティア活動は見送りとなった。 ④90周年記念事業準備委員会を実施した。</p>	A	<p>・引き続き、教育活動の状況を情報提供し、地域・県民の皆様から広くご意見をいただき、PDCAサイクルを回して継続的改善を図っていく。</p>	
3	<p>全校生徒が授業や部活動、生徒会活動に積極的に参加し、学習面・生活面でしっかり自己管理しながら取り組んでいる。自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力(西高力)を伸ばさせた。</p> <p>課題は、引き続き、交通マナーの遵守をより徹底していくこと等である。また、新型コロナウイルス感染拡大により中止・縮小されたグローバル(国際理解)教育の代替事業の着実な実施である。</p>	<p>学習面・生活面で自己を管理し、部活動や生徒会活動に積極的に参加することで、「西高力」(自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力)を育成する。</p> <p>地域や国際社会に貢献、活躍するリーダーを育成する教育を充実させる。</p>	<p>1 自己管理能力の育成 ①朝学習・家庭学習の奨励、学習支援ツールの活用による支援 ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実 ③自己管理能力の育成 生徒指導部による交通マナー指導、遅刻防止指導の徹底 生徒会主催のUNマナーアップ作戦(交通マナー遵守)の実施</p> <p>2 新型コロナウイルス感染拡大により中止・縮小されたグローバル(国際理解)教育の代替事業の着実な実施 県・保健所の指導の下、感染防止対策を徹底した上で、 ①オーストラリア交流(今年度中止)の代替事業の実施 ②ボストン研修(または代替事業であるエンパワメントプログラム)の着実な実施 ③留学生の受入、海外派遣事業への段階的参加</p>	<p>①授業以外の自主的学習時間の増加 ②部活動加入率の維持・向上(昨年度97%) 生徒会活動・学校行事の実施状況、執行部参加生徒数の増加 ③年間遅刻者数減少、交通マナーの遵守の状況</p> <p>①代替事業の実施の状況 ②ボストン研修(または代替事業)の実施の状況 ③留学生の受入、海外派遣事業への参加の状況</p>	<p>学習や部活動、生徒会活動に主体的に取り組むことを通して、生徒の自己管理能力を高め、「西高力」の育成に学校全体で努めた。 ①二個学年で学習支援ツール「スタディサプリ」を導入し、授業以外の自主学習時間の増大を促した。 ②部活動加入率は100.5%だった(昨年度97.1%)(兼部を含む)。また、斜面林友の会への参加生徒が増加した。 ③生徒会風紀委員によるUNマナーアップ作戦(交通マナー遵守)を実施したが、引き続き取り組みが必要である。遅刻者数も増加した。</p> <p>国際理解教育の段階的な復旧または代替事業を実施した。生徒が国際社会で活躍する意欲を持ち、自ら学ぶモチベーションにつながった。 ①オーストラリア研修の代替としてオンライン交流を実施した。 ②米国ボストン研修に加え、ISAエンパワメントプログラムを幹事校として実施し、本校、大宮高校、浦和第一女子高校、熊谷高校が参加した。 ③スウェーデンから長期留学生1名を受け入れた。</p>	B	<p>コロナ禍により、先輩生徒から後輩生徒への伝承が行われにくくなっている。「自主自立」の文化を輝かせていくため、生徒の主体性や自己管理能力の育成が課題である。 ・国際理解教育を拡大し、参加生徒数を増加させたい。</p>	

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和5年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・毎年、目標を高いレベルで達成している学校の姿勢は素晴らしい。今年度も「生徒の学力向上」及び「開かれた学校づくり」の領域で方策の評価指標を満足させる成果を上げており、達成度をAとするのは妥当である。さらなる教育力の向上、魅力化施策に励んでいただきたい。</p> <p>・校内での教員相互授業見学と研究協議、タブレットの多様な活用実践、大学進学子備校での指導法研究や情報収集等の継続的な授業改善に取り組み、生徒の授業満足度、CAN-DOリスト達成率を毎年、高い水準で維持していることは重要なことである。</p> <p>・高大接続改革により、大学入試の制度・内容が大きく変わった。保護者としてもしっかりと学んで理解を深め、学級担任や進路指導部の先生方と情報交換し、子どもにアドバイスできるようにならなければいけないと考えている。</p> <p>・学校ホームページに月間4万アクセス、年間では50万アクセスをいただいていることは大変ありがたい。現在、『校長室だより』や『学校通信』の電子版、西高Hot news、部活動ブログ、生徒募集情報等のコンテンツが掲載されているが、さらに充実させていただきたい。</p> <p>・コロナ禍で地域との交流が制限される中で、学校北面の自然を保護する地域の団体「斜面林友の会」の活動に参加する生徒が増加しており、さらに、西高PTAも今年度から積極的に活動参加することとなった。次年度は、生徒会主催クリーンアップ作戦や小学校交流等も復活させ、生徒が積極的にボランティア活動に参加する意識の醸成を図っていただきたい。</p> <p>・コロナ禍で先輩生徒からの学びや可憐さを受けられなかった1・2年生が、一度なく無くなったものを復活させるのは難しいだろうが、生徒会が中心となり、西高生が意識しなければならぬことを伝えていってほしい。応援している。</p> <p>・遅刻者数の増加が見られたことについては原因を丁寧に究明していただき、学校・家庭間で連携し対応していきたい。</p> <p>・国際交流活動の実施は、社会情勢が左右される面が大きいですが、その中で国連職員等の講演会や海外提携校とのオンライン交流、長期留学の派遣及び受入れ、県内トップ校を招いてのエンパワメントプログラム、米国ボストン研修など積極的に実施したことは素晴らしい。次年度はさらに、オーストラリア研修を復活させていただきたい。</p>	